

小学校教師による、小5 社会科“林業”の教材研究—1枚の写真を通して

山に道を作るのは悪いこと？

作成：鈴木 真（すずき まこと／練馬区立中村西小学校 主任教諭）

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）*

語り：この写真は、山に道路を作っているところですか。どんなものが写っていますか。写真を見てどんなことを思いましたか。パワーショベルが土を掘っていますね。周りの木が伐られていることにも気付いたことと思います。

この写真を見て、「自然を破壊している」と感じた人もいることでしょう。確かに、山に道路を作るとは自然破壊につながる場合があります。例えば、山に道路があることで、「崖崩れや地面の浸食を引き起こす」ことがあります。道路を作るときにできた崖（法面のりめんと言います）が崩れたり、雨水の流れが道路によって集中してしまうために地面を削り取ったりすることがあるのです。次に、「動物の通り道を分断する」心配があります。道路には雨水を流すための側溝を作る場合があります。この溝に野生の生き物が落ちて^は這い上がれなくて死んでしまうこともあるのです。そして、「排気ガスやごみの廃棄」の問題があります。道路ができることで車が山の中に入ります。排気ガスが道路の周りの植物を痛める心配があります。人も簡単に大勢入ることができるようになり、人が増えれば自然を痛めたり、ごみを捨てたりする人も出てくるでしょう。

では、なぜ山に道路を作るのでしょうか。実は、山の手入れをするために、道路はとても大切な役割を果たしているのです。まず「山の巡視」のために道路は必要です。山の様子を見回り、崩れている所はないか、病虫害が出ていないか、クマや



◀道を作っているところ（日林協撮影）

シカの食害の程度はどうかなどをこまめに見守るためには、道路が必要です。次に、「森を育てる作業」のために道路は必要です。苗を植える、下草を刈る、間伐をするなどの作業をするために道路が必要なのです。さらに、伐った木を運び出す（運材）ために道路は必要です。せっかく伐った間伐材が放置され、また、間伐ができずに山が荒れてしまった例が日本の各地に見られます。人が苗木を植えて育てている人工林の世話をするために、道路が大切な役割を果たしているのです。

山に道路を作るとは、森林を守り育てるために必要なことが分かりましたね。なるべく自然に影響を与えない道路作りの経験と技術が大切ということです。どこに道路を作るか、自然に配慮した工法などをよく検討して、本当に森林を守り育てるために必要な道路を作ることが大切でしょう。

意図（鈴木）：小学校第5学年の社会科では、「森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力」について学習する。森林資源の育成や保護のためには、山に作業に入る道路が必要なことは、あまり知られていない。山に道路を作ることの長所、短所を考えさせるために本教材を作成した。

寸評（山下）：「水源のかん養」（本誌 No.822）、「木の伐採」（本誌 No.826）,そして今回の「林道作り」に関して、教育の扱いにおいて誤解されやすいと作成者は言う。その理由はおそらく、人工林を森林としてしっかり見てこなかったからなのだろう。教育は、もっと森林としての人工林に目を向けなければならない。

*山下…〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel 075-644-8219（直通）